

- 1 ヘイ、ユミ。マリアを見た？
2 彼女は今までにここにいるべきです。
3 彼女はまだバイオリンの練習をしています。
4 彼女は明日コンサートがあるんです。
5 彼女は本当に神経質になっています。
6 彼女はそんな神経質になれないよ。
7 彼女は数百のコンサートをしています。
8 彼女はどっちみち、本当に練習する必要もありません。
9 彼女はすでにすでに上手です。
10 彼女はいつか有名にさえなるかもしれません。
11 彼女はうまくなればなるほど神経質になり、そしてもっと練習する必要があると彼女は言っています。
12 私は私のかばんが見つかりません。
13 私はそれをマリアの家においてきたに違いありません。
14 いいえ、あなたはそこにそれを置いてくることはできません。
15 私は昨夜それを見ました。
16 あなたは家のどこかに置いたに違いありません。
17 それはこのあたりじゃないですか。
18 いいえ。私は見ました。
19 リンダに聞きなさい。彼女がそれをどこかにやったのかも知れない
20 私はそれをあなたの机の下に置きました、ユミ。
21 ああ、ありがとう。私はそこを確認しておくべきでした。
22 明日ロンドン塔に行きましょう。
23 それはいい考えです。
24 私たちはあなたのお父さんをロンドンで観光に連れて行ったものです、ケビン。
25 私たちはとても早く起きてバスに乗ったものです。
26 私たちはふつう他の旅行者よりも早いたものです。
27 いい考えです。私の父はそれについて話したことがあります。
28 私たちは明日のためにバスの時刻を確認するべきです。
29 そして、ケビン、私たちはあなたに目覚まし時計を買う必要があります
30 もしあなたがいままでテレビを見たり、ラジオを聴いたりしたなら、
 あなたはデヴィッド・サーノフのことを考えるべきです。
31 多くの人々は彼の名前を知りません。
32 彼はこれらの驚くべき技術を発明したのではありません。
33 しかしながら、彼はそれらを世界に紹介するのに大きな役割を果たしました。
33 娯楽と通信のための重要な道具としてラジオとテレビは数10億の生活を改善しました。
34 デビッドサーノフはそれを可能にした人々の一人でした。
35 デビッドサーノフは1891年ロシアの小さな村で生まれました。

- 36 彼はすぐにとっても聡明な少年として認識されました、そして彼の父の友人たちは彼はラビ(宗教家)になるために勉強するべきだといいました。
- 37 しかしながら、彼の家族はとても貧乏でした。
- 38 彼らは1900年にニューヨークに引越しました。
- 39 彼は若い少年として家族を支えるために新聞を売りました。
- 40 サーフがニューヨークに来てすぐに彼の父は重い病気になりました。
- 41 それで彼はたった15歳の時に電報会社で働き始めました。
- 42 そこで彼は電子通信の重要性を学びました。
- 43 彼はまた自分売り込むことの重要さも学びました。
- 44 彼の人生においてひとつの有名な話が1912年に起きました。
- 45 タイタニック号の悲劇が起きたとき、サーフはその船や乗客の家族と通信していた電報作業者の一人でした。
- 46 後に、人々はサーフは三日間の間眠りもせず生存者の名前を送ったといいました。
- 47 これはうわさに過ぎません、しかしサーフは決してそれを否定しませんでした。
- 48 いずれにせよ、それは多くの人に印象付ける話でした、そして彼をもう少し有名にしました。
- 49 サーフは電報が通信の唯一の方法ではないことを知っていました。
- 50 1920年代の初めにほとんどの人はラジオを持っていませんでした、そして放送はまだ初期段階でした。
- 51 しかしながら、彼は私たちの生活の一部としてラジオ放送の未来を見ていました。
- 52 そのとき彼はRCAで働いていました、それは合衆国で最大の電子会社のひとつでした。
- 53 彼はラジオをもっと人気にするために大きな出来事が必要なことがわかっていました。
- 54 彼はRCAの最初の大きな放送で人々に「ラジオを買いたい。」といわせたかったのです。
- 55 1921年の7月2日にボクシングの試合がアメリカ人のチャンピオンとフランス人の挑戦者の間で行われることになりました。
- 56 サーフはこれが歴史上最大のボクシングの試合にひとつになるだろうと考えました。
- 57 彼はRCAの彼の上司たちにこの試合を放送するように言いました。
- 58 最初彼らはNOといいました、しかし、サーフはこの放送を可能にするために戦い続けました。
- 59 最後には、彼の上司たちはYESと言いました。

- 60 30万人近くの人々がその試合を聞きました、そして口コミはすぐに拡がりました。
- 61 この出来事がラジオを国でもっとも欲しいもののひとつにしたのです。
- 62 1923年までに約300万人がラジオを聴いていました。
- 63 ラジオ局のネットワークは合衆国中に広がりました。
- 64 ラジオは日常生活の一部になったのです。
- 65 しかし、サーノフは未来に向かって見続けたのです。
- 66 彼は動画が放送娯楽の次の段階を分かっていました。
- 67 1930年にサーノフはRCAの社長になりました、そして会社をより強くするために働きました。
- 68 彼は会社にテレビを開発している技術者にお金を出させました。
- 69 大恐慌の1930年代でさえ、RCAはテレビにお金を使い続けました。
- 70 ついに、1939年にRCAはニューヨークのワールドフェアで白黒テレビ放送を発表したのです。
- 71 第二次世界大戦後、アメリカの家庭でテレビはラジオと同じように一般的になりました。
- 72 サーノフはまだ未来を見ていました。
- 73 彼の次の考えはカラーテレビでした。
- 74 彼の会社のライバルのひとつCBSも自身のシステムを開発していました。
- 75 サーノフはRCAが自分のシステムを提供できるまで多くの法廷論争をしたものです。
- 76 サーノフは合衆国政府に対してすべての人がすでに持っているテレビでカラー放送も白黒放送も見るべきだと言いました
- 77 RCAの技術ではそれは可能でしたが、CBSのものではできませんでした。
- 78 最後に、彼の会社は勝利しました。
- 79 デビッドサーノフは1971年に亡くなりました、しかし彼が世界に紹介することを助けた技術は今日でもまだ一般的です。
- 80 多くの人々はカラーテレビを携帯電話で見ることができます。
- 81 そして、インターネットの時代でも、テレビ放送はまだとても人気です。
- 82 通信の世界に関してサーノフは歴史上もっとも重要な人々の一人かもしれません。
- 83 英国で多くのコーヒーが飲まれているにもかかわらず、紅茶はもっとも人気の飲み物です。
- 84 紅茶は400年以上前に始めて英国にやって着ました。
- 85 最初、それはとても高価で、お金持ちだけが買って飲むことができました。

- 86 しかしながら、それは少しずつ安くなり、そして、そのうちすべての人々が飲んでいました。
- 87 紅茶は中国から英国に来ました。
- 88 その後、しかしながら、ほとんどの紅茶はインドやスリランカからやってきました。
- 89 これらの国は英国の植民地で過去に多くの英国人紅茶の農民になるためにそこに渡っていきました。
- 90 英国の人々はほとんどいつも紅茶を牛乳と一緒に飲みます、そしてよく砂糖も一緒に。
- 91 人々はそれを起きたときと寝る前に飲みます。
- 92 英国ではしかしながらそれはいつでも「お茶の時間」です。